西東京市市民協働推進センター

令和元年度第９回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和２年１月21日(火)午後７時00分～９時00分
■開催場所：イングビル３階第３、４会議室
■出席委員：古林委員、櫻井委員、佐藤委員、柴委員、久松委員、平林委員、三好委員＜以上７名、五十音順＞
■事 務 局：小松センター長、鈴木副センター長、妻屋福祉活動推進課長、山田地域福祉推進係長、青木主事

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、１月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：市民活動パワーアップ講座のSDGs重層性とはどういう内容だったのか。

事務局：(SDGsの)17のゴールのカードを使って行われた。例えば、経済を豊かにしていくことを優先すると、進め方によっては環境が悪化していくなど、いろいろな要素を含んだゲームであった。そのため「一方面からだけ見るのではなく様々な角度から見て行った」ということである。

委員長：質問ではないが、こそだてフェスタについて、ひばりが丘児童センターで開催したいと打診があり、施設的に問題はないので可能である旨伝えてある。社会教育委員会の会議は提言とスケジュールが話し合われたとあるが、実際に提言されるのはいつになるのか。

事務局：令和３年度に実施される。令和２年度中に答申を出す運びになっている。

2. ２月以降の事業について

事務局より、２月以降の実施事業について説明があった。

委員長：今週末にNPO市民フェスティバルが開催されるが、進捗はどうか。

委　員：中部地域で開催されるので、参加団体と来場者が広がるのではないかと期待している。

委員長：説明会も参加したが、具体的な質問もあり参加団体が積極的だと感じた。新しい場所での開催なので集客は気になる。

委　員：チラシはどのあたりにどれくらい配布したのか。

事務局:1500部作成し、通常の配布場所の他に、会場であるフレスポひばりが丘にも置かせてもらった。SNSでも発信した。

委員長：枚数もそうだが、どこに配布するかも重要である。

委　員：会場を見に行ったが、近くに住んでいる方は家族連れが多いと思った。チラシも少なくなっていた。

委員長：にしにし.netのチラシは配布されているのか。

事務局：配布している。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：意見がなければ確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. 運営委員会について

事務局より令和２年度西東京市市民協働推進センター運営委員会委員名簿（案）について説明があり、次期運営委員候補について協議した。

2.センターの業務執行に関する事項（重点事業の企画）について

事務局より NPO パワーアップ講座（企画案）について説明があった。

副委員長：UD トークは使わないのか。

事務局：確認する。

委　員：具体的には何をするのか内容を知りたい。

事務局：二人一組で SDGs のカードゲームを行う。手札を使用し、お金がいくら、時間がいくらあるなど手札を交換しながら目標を達成するように進めていくゲームだ。

委　員：日々の活動に反映させることはできるのか。今までの大量生産大量消費で経済を発展させてきた中で、それに基づく環境悪化がおきており、関連性とあるが経済の仕組みがどうなっているかまで含めて、うまくバランスとるように日々活動できるようになるものなのか。

事務局：そのようになって欲しいと思い、スタッフが実際に経験してきた講座を企画した。

委員長：他の参加者の感想や様子はどうだったのか。

事務局：2 時間半の講座であったが短く感じた。ゆめこらぼでは昨年度に引続き 2 度目となるが、初めて聞いた人は SDGs の意味を理解することから始まるので、その部分も考慮してプログラムを組む予定である。

副委員長：土曜日に若い人が企画している SDGs に参加した。参加者がサルベージ・パーティー(もてあましている食材を持ち寄り、その場で調理し食するという「新しい食のスタイル」のこと)を知り、早速やりたいなど意見がでていた。フードロスなどのテーマではアプリの紹介もあった。色々なところで日々の生活に直結している。話を聞くだけでも人は行動が変わるという事を実感した。

委　員：言っていることはよく分かるが、本当のところはどこまでやろうと思っているのか考えさせられる。パリ協定からアメリカは離脱している。最終的にはそういうところまで踏み込んで SDGs をやろうと思っているのか、疑問に思う。環境にやさしいものを購入することなどは良いが、どこまで「本気で」取り組んでいるのか。

副委員長：私も懐疑的である。「戦争兵器をゼロに」はない。国連の中で入れられなかった事情があるということだ。国策だから飛びつきやすいが、安易に飛びついてよいかどうかは疑問に思う。個人で行動する時にどう捉えるかは考える。

委員長：基本的に「知ろうよ」であり「やろうよ」ではない。

委　員：つながる事を期待しているが、求めてはいない。知らなければ、やるとかやらないのジャッジが出来ない。

副委員長：知らなければ疑問も出て来ない。

委　員：気になる事が一点ある。プロポーザルや第三者評価で企画の中で結果評価の部分は押さえておかなくてはならないと感じている。検証可能な指標の設定を作る必要があるのではないか。

事務局：パワーアップ講座は参加者のアンケートになるかと思うので、意見を反映させたい。
副委員長：SDGs という言葉が増えたとしたら、結果として市民の活動の中に SDGs の単語が増えて浸透していくという事例にはなる。
委　員：結果が出ないとしても、検証を試みた痕跡だけは残しておかなくてはならないと思う。
副委員長：この講座で SDGs を知って欲しいので、知ったことで結果とはなる。
事務局：いろいろな重層性がありかなり難しい。
委　員：チラシに Part2 は絶対入れるのか。Part1 に出ていない人が参加しにくいのではないか。
事務局：「初めての方でも大丈夫」の文言は入れる。

事務局より地域活動紹介ゆめサロン（企画案）について説明があった。
副委員長：対象者は市民でよいのか。
事務局：(市民で)よい。市民活動を知ってもらいたい。地域活動・スタート説明会の参加者のフォローアップも含んでいる。
副委員長：「相談」にあった外国籍の方にも参加してもらえればより良いと思う。チラシ配布場所も考えてはどうか。やさしい日本語パターンのチラシを作ってもよいのではないか。元気で時間がある方ばかりが対象ではないと思うので、普段届かない人に届くようチラシ配布の方法を工夫して欲しい。外国籍の方ならば西東京市の活動に参加することで自信にもつながり、地域につながる機会となる。
委　員：おとぱ世代が対象なのか。話しに共感しやすい年齢層もあると思うが、こそだて世代が参加しても良いのか。
委　員：どんぐりは誰が行っても構わない居場所なのか。
副委員長：個人でやっている地域活動拠点のようなもので、誰でも行くことができる。
委　員：チラシの中に「市民活動」とか「居場所づくり」などの言葉がある方がイメージしやすいのではないか。
事務局：登録団体にはメーリングリストで送っている。事務連絡先には届くが、団体のメンバーにまで届かないことがあるのでそこまで届くようにしたいが、どうしたら良いか。
副委員長：メールは自動的に来るだけなので、市報レベルのテキストにして送ることも必要である。チラシに QR コードをつけ音声がでるとイメージをしやすい。地道な努力が必要である。

4. そ　の　他

1. 令和 2 年度実施予定市民協働推進センター受託に関わる件について

事務局より説明があった。
委員長：「受託の候補者」とはどういうことか。
事務局：しっかりとした契約を交わすことで受託者となるため、現段階ではこの表記となる。
委員長：当日のプレゼンに参加した。運営委員会の意見を取り入れた方針もプレゼンに取り入れられていた。

2. 次回運営委員会日程について

日時：2 月 18 日（火）19 時～21 時
会場：イングビル 3 階　第 3、4 会議室